

経営比較分析表（令和3年度決算）

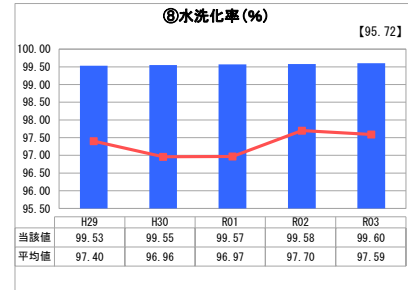
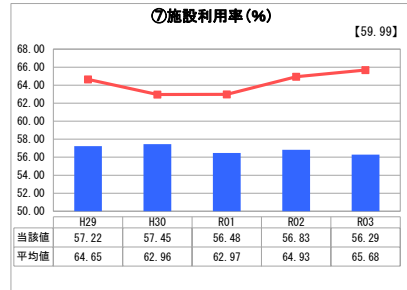
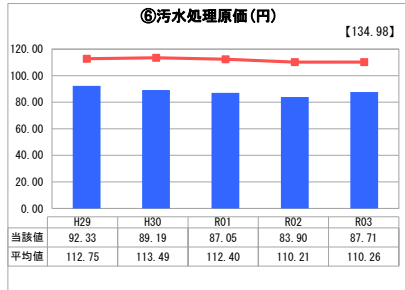
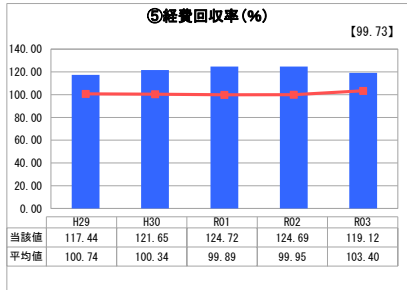
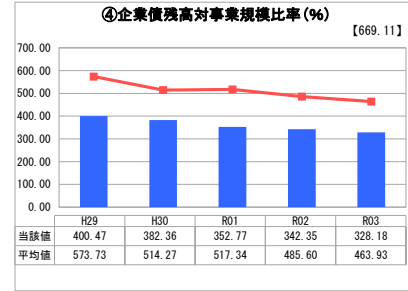
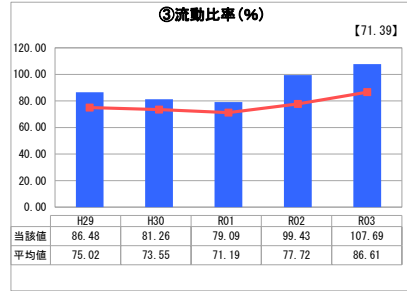
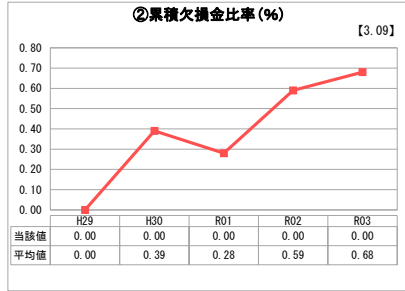
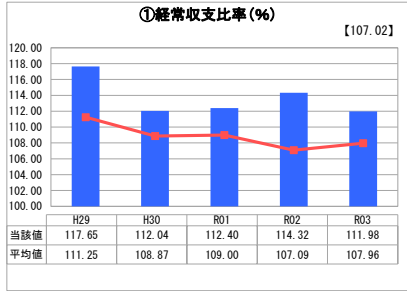
大阪府 吹田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	65.19	99.93	76.72	1,609

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
378,869	36.09	10,497.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
378,505	34.77	10,885.96

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、経常収益で経常費用を賄えているため100%を超えています。これは単年度黒字を継続できており良好な状況にあり、類似団体と比較して高くなっています。

② 流動比率は、短期的な債務の支払いに対しての資金を確保できている状況のため100%を超えており、良好な状況にあり、類似団体と比較して高くなっています。

③ 企業債残高対事業規模比率は、事業着手が早いこともあり、類似団体と比較して低くなっています。今後の施設改築に伴い増加することが懸念されます。

④ 経費回収率は、適正な使用料収入の確保ができていることや低い汚水処理原価を維持できているため100%を超えています。これは下水道使用料で回収すべき経費を賄えているため良好な状況にあり、類似団体と比較して高くなっています。

⑤ 汚水処理原価は、企業債利息の減少や施設の老朽化により減価償却費が少ないことなどにより、類似団体と比較して低くなっています。

2. 老朽化の状況について

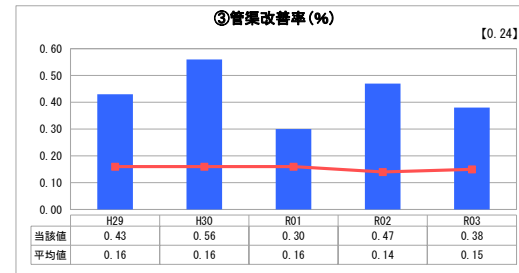
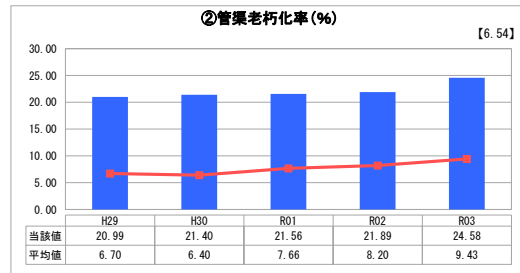
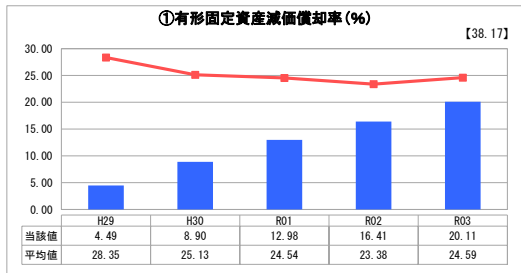
昭和30年代の千里ニュータウン建設に伴い管渠が大量に整備されており、一斉に老朽化が進んでいます。下水処理場も供用開始後約50年を経過し、施設の老朽化が進んでいます。

① 有形固定資産減価償却率は、施設の老朽化が進んでいるため増加傾向にあります。なお、企業会計移行後からの数値であり、本市の平成29年度の企業会計移行は早くはなかったため、類似団体と比較して低くなっています。

② 管渠老朽化率は、建設当初から約60年が経過して、類似団体と比較して極めて高くなっています。

③ 管渠改善率は、類似団体と比較して高くなっていますが、老朽化した管渠は増加する見込みのため今後も計画的に改築更新を進めていく必要があります。

2. 老朽化の状況



全体総括

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、有収水量が減少し事業収益の根幹である下水道使用料も減少しました。施設の老朽化により減価償却費の減少や企業債残高の減による支払利息等の修繕費が増加したことにより費用が増加したため、経常利益は前年度と比較して減少しました。汚水整備はほぼ概成し、浸水対策や長寿命化計画に基づく改築更新を進めてきました。しかし、施設の老朽化が進行していることに加え、近年の集中豪雨による浸水被害、地震などの大規模災害への対策など、多くの課題が山積しています。

今後は経営環境の変化に対して適切に対応するために、平成31年3月に策定した下水道経営戦略に基づき、更なる民間活力の導入など、より一層の経営基盤の強化を図り、持続可能な下水道事業を営んでいく必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。